

# 2025年度 長ねぎ 病害虫防除体系

JA庄内たがわ  
2024年12月16日時点の農業登録情報をもとに作成

殺虫剤	防除時期							系統	IRACコード	薬剤名	希釈倍率 または 処理量	水 100ℓ当薬 剤量	使用時期 (収獲前日数)	使用回数	備考				
	キノコバエ類	ネダニ類	ネギコガ	シロイチモジ ヨトウ	ハモグリバエ類	ネギハモグリバエ	ネギアザミウマ									ネギアザミウマ	ネキリムシ類		
殺虫剤				○	○	○	○	M	28	いずれかを選択	ベリマークSC	400倍 セル成型育苗トレイ1箱 又は ペーパーポット1冊(約30×60cm、使用 土壌約1.5~4リットル)当り0.5リットル	育苗期後 半~定植 当日	1回	かん注 ※トリフミン水和剤との混用事例なし				
	○					○	○	A M	4A 28		ジュリボフロアブル	200倍 セル成型育苗トレイ1箱 又は ペーパーポット1冊(約30×60cm、使用 土壌約1.5~4リットル)当り0.5リットル	育苗期後 半~定植 当日	1回	かん注 ※トリフミン水和剤との混用事例なし				
						○	○	A	4A	ベストガード粒剤	6kg/10a		定植時	1回	植溝処理土壌混和				
	○	○						H	1B	トクチオン細粒剤F	9kg/10a		定植時	1回	植溝土壌混和				
	○	○							3A	フォース粒剤(劇)	9kg/10a		定植時	1回	作条土壌混和				
	○	○											30日前	1回	株元散布				
							○	H	1B	ネキリエースK	3kg/10a		30日前	2回以内	土壌表面株元処理				
		○					○	A	4A	ダントツ粒剤	6kg/10a		3日前	4回以内	株元散布				
			○	○	○			M	28	プリロッソ粒剤オメガ	6kg/10a		前日	3回以内	株元散布				
	○								16	アプロードフロアブル	500倍	200ml	14日前	1回	株元かん注 (1~3ℓ/m <sup>2</sup> )				
	○	○	○	○		○		B	30	グレーシア乳剤	2000倍	50ml	7日前	2回以内					
			○	○		○		H	1B	トクチオン乳剤	1000倍 2000倍	100ml 50ml	7日前	3回以内	株元かん注 3ℓ/m <sup>2</sup>				
			○			○	○		14	リーフガード顆粒水和剤(劇)	1500倍	66g	7日前	2回以内					
	○	○	○	○	○	○			21A	ハチハチ乳剤(劇)	1000倍	100ml	7日前	2回以内	さび病、べと病に登録あり				
			○	○		○			13	コテツフロアブル(劇)	2000倍	50ml	7日前	2回以内					
○	○	○	○		○		M	28	ヨーバルフロアブル	2500倍	40ml	3日前	3回以内						
					○	○		6	アグリメック(劇)	1000倍	100ml	3日前	3回以内						
					○	○	A	4A	アクタラ顆粒水溶剤	1000倍	100g	3日前	3回以内						
					○	○		9B	コルト顆粒水和剤	2000倍	50g	3日前	3回以内	予防的に使用。食害がある時は他剤を使用する。					
		○	○				M	28	プレバソンフロアブル5	2000倍	50ml	3日前	3回以内						
		○	○		○			5	ディアナSC	2500倍	40ml	前日	2回以内						
		○	○		○		B	30	プロフレアSC	2000倍	50ml	前日	3回以内						
殺菌剤	防除時期							系統	FRACコード	効果等	薬剤名	希釈倍率 または 処理量	水 100ℓ当薬 剤量	使用時期 (収獲前日数)	使用回数	備考			
	黒腐菌核病	白絹病	小菌核腐敗病	べと病	黒斑病	葉枯病	さび病										軟腐病	萎ちよう病	
									○	定植前	I	3	予防・治療	トリフミン 水和剤	①50倍(5~30分間苗根部浸漬) 苗床かん注(セル成型育苗トレイ1箱又はペー パーポット1冊(30×60cm、使用土壌約5ℓにつき) ②100倍では0.5リットル/箱・冊 ③200倍では1リットル/箱・冊	定植直前 定植前	1回	※トリフミン水和剤を使用する場 合、①、②、③のいずれかとする。	
				○						梅雨		21	予防・治療	ランマンフロアブル	2000倍	50ml	3日前	4回以内	梅雨時期のべと病対策
								○		高温期 (軟腐病)		P02	☆予防	オリゼメート粒剤	6kg/10a		30日前	2回以内	土寄せ時 株元散布
								○			ホ	24・M01	予防・治療	カスミンボルドー	1000倍	100g	14日前	2回以内	
				○	○		○	○			ホ	M01	☆予防	ヨネポン水和剤	500倍	200g	7日前	4回以内	
								○				31	予防・治療	スターナ水和剤	2000倍	50g	7日前	3回以内	
		○						○				U18	☆予防・治療	バリダシン液剤5	500倍	200ml	前日	2回以内	白絹病は株元散布
				○				○			ホ	M01	☆予防	Zボルドー	500倍	200g	-	-	高温時葉害注意、野菜類(キャベツを除く)で登録
								○			ホ	M01	☆予防	コサイド3000	2000倍	50g	-	-	葉害軽減にクレフロン(200倍)加用。野菜類で登録
				○	○		○				へ	M03	☆予防	ジマンダイセン水和剤	600倍	166g	14日前	3回以内	合わせて3回以内
			○	○	○	○				イ・へ	3・M03	予防・治療	テーク水和剤	600倍	166g	14日前			
												M05	☆予防	ダコニール1000	1000倍	100ml	14日前	3回以内	
												19	予防・治療	ポリオキシンAL水和剤	1000倍	100g	14日前	3回以内	ネギアザミウマ(発生初期)に登録あり
○	○	○	○	○	○					ハ	11	予防・治療	アミスター20フロアブル	2000倍	50ml	3日前	4回以内		
○	○									ハ	11	予防・治療	メジャーフロアブル	2000倍	50ml	前日	3回以内		
○	○	○								ニ	7	予防・治療	カナメフロアブル(劇)	4000倍	25ml	前日	4回以内	白絹病、黒腐菌核病は株元散布	
○	○	○								ニ	7	予防・治療	パレード20フロアブル	2000倍	50ml	前日	3回以内		
○	○									ニ	7	予防・治療	アフエットフロアブル	2000倍	50ml	14日前 前日	2回以内	株元かん注(1ℓ/m <sup>2</sup> )	
		○									2	予防・治療	ロブラール水和剤	1000倍 500倍	100g 200g	14日前	3回以内	ホトリチス葉枯症に登録あり 株元かん注(1ℓ/m <sup>2</sup> )	
		○									1	予防・治療	トップジンM水和剤	1000倍	100g	7日前	3回以内	※収穫間際の使用は避けること	
○	○	○									12	予防	セイビアフロアブル20	1000倍	100ml	前日	3回以内		

※殺虫剤・殺菌剤は、同系統の薬剤を連用・多用しない。 ☆耐性菌がでにくい薬剤

※除草剤は裏面にあります。→

《除草剤》

※除草剤は、ネギに直接かからないよう注意してください。

	適用雑草名	HRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
定植後	一年生雑草	3	ゴーゴーサン細粒剤F	4~6kg/10a 全面土壌散布	定植後(雑草発生前) (但し、定植10日後まで)	どちらか1回のみ使用 (両方使用できない)
		3	ゴーゴーサン乳剤30	200~300ml/10a 全面土壌散布 (散布液量70~100ℓ/10a)		
		3	クレマートU粒剤	4~6kg/10a 全面土壌散布	定植活着後(雑草発生前) (但し、定植10日後まで)	どちらか1回のみ使用 (両方使用できない)
		3	クレマート乳剤	200~400ml/10a 全面土壌散布 (散布液量100~150ℓ/10a)		
		5 15	サターンバアロ粒剤	4~5kg/10a 全面土壌散布	定植直後 (雑草発生始期まで)	1回
生育期	一年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	3	トレファノサイド乳剤	200~300ml/10a 全面土壌散布 (散布液量100ℓ/10a)	定植後雑草発生前 (但し、収穫30日前まで)	2回以内
	一年生広葉雑草 (砂土では使用しない)	5	ロロックス(露地栽培のみ)	75~150g/10a 雑草茎葉散布又は全面散布 (散布液量100ℓ/10a)	定植30日後以降 中耕培土後 (但し、収穫30日前まで 雑草発生揃期)	1回
	一年生雑草	10	バスタ液剤	300~500ml/10a 雑草茎葉散布 (散布液量100~150ℓ/10a)	収穫前日まで (雑草生育期耕起前・定植前 又は畦間処理)	2回以内

※農薬散布の留意事項※

◆留意事項

- ハウス内での除草剤の使用は極力避けてください。
- 病害虫の発生状況・予察に留意しながら予防・発生初期防除を心がける。  
薬剤抵抗性が発現しやすい薬剤の連用は避け、他の剤と使い分けてローテーション防除を行いましょう。
- 病害虫の温床となるものについては随時、適切に撤去する。軟腐病・腐敗病は、わずかな病斑でも出荷後急速に腐敗が進むので出荷に際しては病害株が混入しないように充分注意する。
- 適正な栽培密度とし、通風・作業性の改善を図る。
- 園地の適正な排水対策を行う
- 枯葉等を適正に管理する。
- みつばちへの配慮を行う。
- 散布量は、生育に応じて露地栽培100~300ℓ/10a(除草剤除く)、ハウス栽培10~30ℓ/30坪とする。
- 使用時期の「収穫前日まで」とは、薬剤散布を終了した時刻より24時間を経過するまで収穫できないことを示します。
- 展着剤は、アプローチBI、ミックスパワー、ワイドコート等を使用する。  
肩掛け噴霧器の場合はワイドコートを推奨。  
夏場の銅剤への展着剤の使用は、薬害の恐れがあるので注意する。
- 隣接している作物に薬剤が飛散しないように十分に注意すること。天気が良くても、風の強い日は散布しない。
- ドリフト軽減ノズルや防薬ネット等をできる限り使用する。
- 防除器具は使用后、通水で3回以上洗浄しましょう。さらに、前回使用後に十分洗浄したか確認し、  
使用当日も薬剤調合前にもう一度通水し洗浄しましょう。
- 洗浄水は川や下水等に流さないようにしましょう。

《展着剤》

薬剤名	希釈倍数
アプローチBI	5ml/散布液10ℓ (2,000倍)
ミックスパワー	3.3ml/散布液10ℓ (3,000倍)
ワイドコート	1~3.3ml/散布液10ℓ (3,000~10,000倍)

◆害虫防除のポイント◆

【ローテーション防除の実施】

アザミウマ等の害虫は薬剤耐性を持ちやすいため、同じ剤や同じ系統の薬剤の連用は厳禁。  
薬剤の系統を変えながら防除する必要があります。薬剤の系統は、「ねぎ病害虫防除体系」をご参考下さい。

【散布例】

トクチオン乳剤→グレーシア乳剤→リーフガード顆粒水和剤→アグリメック・・・など